

【主な意見】

◎第3次佐賀市スポーツ推進計画の審議会答申案について

(委員)

推進計画を基に事務事業がつくられていくことになると思いますが、プロスポーツを活用したいのであれば、活用するからこそ、市全体の利益につながるような、成果目標を設定する必要があると思っております。

この点について、どうのお考えかをお聞かせ願えたらと思っております。

(事務局)

プロスポーツについては、成果指標を検討しているのが入場者数とか、プロスポーツに特化したものになっておりますので、御意見を伺いましたので参考にし、指標は検討させていただきたいと思っております。

(委員)

観戦者数とか、スポーツ教室の参加者数にするとどうしてもバスケット教室をやるとバスケットの推進になってしまうので、そこはちゃんとそうじゃない指標を設ける必要があると思っております。

また、事業進捗報告を見ると全てがほぼ達成できていない、未達成という悲しい状況になっております。その原因が、全体の成果指標「日常的にスポーツを行う市民の割合」というすごく大きい目標を立ててしまうと、未達成というのが多くなってしまおうと思うので、このバランス感覚が難しいと思っております。

(委員)

自分は身体障害の重度障がい者の方の施設で仕事しております。プロスポーツが身近になったということで、利用者の方の関心というのも非常に高くなって、ニュースを見たり、そういう話題づくりにもなっている。

障がい者の方が、出かける機会が増えるという、スポーツを通じてそういう観に行きたいと思うというのが効果あるのかなと思っております。

(事務局)

今年度、出張スポーツ教室っていうのをバルーナーズさんのほうにお願いしております。そこは障害の有無にかかわらず、どなたでも対応できるような事業で、3月に障がい者の団体のところで、事業実施していただくような予定になっております。

(委員)

スポーツはしてないけど観ている方はそこからのスタートになるし、している方はもう既にしていても観るはもちろん、ささえる方にも移行できるかもしれないから、今、その人たちがどういう状況にあって、次のステージとしてはどっちに行くのかっていう、そういう順番をそれぞれの立場で考えていったほうが良いのではないかな。3つが並行しているように思えます。

だから順番で言ったらする・みる・ささえるじゃなくて本当はみる・する・ささえるなんじゃないかなと思っております。

(事務局)

今回、基本の方針である「するスポーツの推進」「みるスポーツの推進」「ささえるスポーツの推進」というところで、今の計画は「生涯スポーツの推進」「競技スポーツの推進」「スポーツ施設整備の活用」ということで一般的にするスポーツが1番取り沙汰されていて、どうしても具体的な施策とか取組がするスポーツに偏ってというところで、スポーツもするだけではなく、みるもささえるもやっぱり重要だよという視点で我々も問題意識として持ちましたので、以前のような生涯スポーツの推進とかそういう形にしてしまうとみるとかささえるが、不足してしまうところもありましたので、あえて今回「するスポーツの推進」「みるスポーツの推進」「ささえるスポーツの推進」ということで、みるとかささえるという部分も特だしにさせていただきました。

また、国でもする・みる・ささえるスポーツと言うのが一般的になっています。

(会長)

今日が最後の会議ということで、いただいた意見を計画に反映する、しないをまた集まってもらうことはできませんので、会長一任ということで預かれさせてもらっていいでしょうか。

それが反映できるものは反映していく、できないのは次回の計画に反映するとか、いろんな方法があると思いますので、そういう方向でやっていきたいと思っておりますけどよろしいでしょうか。

(委員)

すべての委員了解。

(委員)

グラフの色使いですが、凡例等、グラフの色が割と淡い色なので色覚異常の方からすると、見分けにくいものがあるのではないかと思います。

(事務局)

そちらの点につきましては、色覚異常の方とかの配慮も含めたところで、もう一度確認をしたいと思っておりますので、御指摘ありがとうございます。